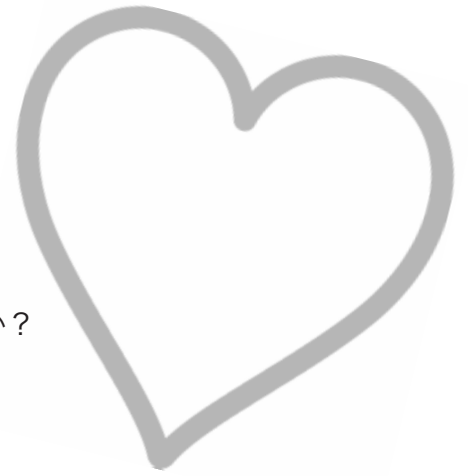


心温かい人々が暮らす町

- にぎやかそ美波町 -



子どもへの「パワハラ」に気づかない親

子どもへの「パワハラ」について親として考えたことはありますか？

1. 感情的ですぐキレル
2. 自分の都合や気分で言うことがころころ変わる
3. うまくいかないことは誰かのせいにする
4. 叱ってばかりで褒めることができない
5. 子どもに威張る

心当たりは、ありませんか？

子どもにも大人と同じように一人の人間としての人権があります。しかし、最近はいじめや体罰、子どもの生命に関わる児童虐待、貧困などが社会問題化し、子どもを取り巻く環境は厳しくなっています。

子どもは弱い存在であり、親は圧倒的な権力者です。本来子どもを守るべき親や保護者が子どもの体や心を傷つけることは子どもに対する人権侵害です。「しつけ」と称して行った行為でも子どもの体や心を傷つけることは、「しつけ」ではありません。弱い相手を一方的に攻撃する、これは親によるいじめです。親による子どもへの人権侵害であり、ハラスメントといっても過言ではありません。子どもをいちばんいじめているのはほかの誰でもない親という事になります。親にいじめられている子は、弟や妹、あるいはクラスの弱い子をいじめたりします。親がいじめを教えているのです。

虐待は子どもの将来にわたって影響を及ぼします。今から数十年前までは、それが大きな問題であるとは認識されていませんでした。「人間関係があるところではあって当然のこと」くらいの認識しかなかったのです。最近になってようやく、それは許されないことだと認識されるようになりました。「親のひどい言葉や理不尽な振る舞いもいじめなのだ。親であってもいじめはゆるされない」という認識を持つべきです。

本当に、子どもが叱られている姿を見ると悲しくなります。実につまらないことで親たちはよく子どもを叱ります。家で叱るだけでは足りなくて、買い物や出かけた先でも、ついさっきまで、子どもはニコニコ笑顔いっぱい幸せそうにしているのに、そこへ親の冷たいひと言で子どもから笑顔が消え、悲しみが広がります。せっかくの楽しいひとときも台無しです。

あなたは、大人同士では言えないようなことでも子どもには言ってしまう、そういう人ではありませんか？

子どもは親の真の姿を映す鏡なのです。

もう一度、子どもの幸せや未来についてよく考えてみましょう。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、“にぎやかそ”美波町づくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。